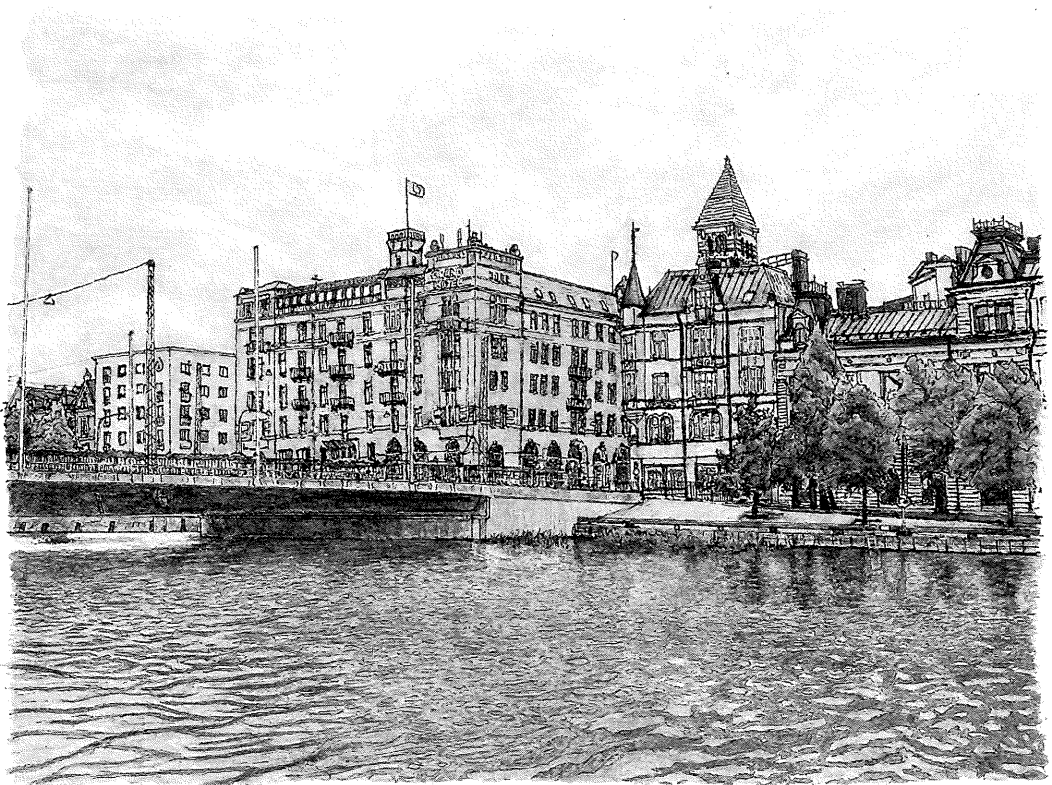


白夜

第 36 号



スウェーデンの夜景 (Koi M)

北海道スウェーデン協会

2015. 5

北欧への関心

杉本 拓

2014年2月ロシア・ソチで行われた冬季オリンピック大会、女子カーリングで銀メダルに輝いたスウェーデンチームが、2015年世界選手権札幌大会に参加し、北海道スウェーデン協会が北海道カーリング協会役員でもある鈴木理事のコーディネートによって歓迎・応援の時を持つことができたことは、年々高まっているカーリング熱に私たちも引き込まれると共にスポーツや文化など多様な交流に改めて認識を深めました。

さて、2018年は日本とスウェーデンの国交樹立150年を迎えるということで、当協会としても何ができるかなど多面的な協議及び企画を進めていますが、一方、私個人としては150年前両国の国情、そして現在に至る両国の歩みなどの歴史を学んでみたい気持ちにもかられています。

我が国は1858年日米修好通商条約が結ばれ、その後オランダ、ロシア、イギリス、フランスと同様な条約が結ばれました。

更に尊皇攘夷運動、倒幕に成功した明治維新は1868年であり、スウェーデンとの国交樹立もこの年ということになります。

この時代のスウェーデンはどんな国情であったのか、あまり知識を持ちあわせません。紀元前のヴァイキング時代から長い歴史の変遷、スカンジナビア諸国あるいは近隣国との戦い、各時代の王位の業績などには興味深いものがあ

りますが、1840年代義務制学校教育の施行をはじめ自由主義改革の時代が進行しており、1864年フランスとの貿易協定によってほんものの自由貿易時代が到来した他、遺産相続権の男女平等、刑法にも、より人道的要素の取り入れ、信教の自由、地方自治などの自由主義的政策が実施されたとあります。(I.アンデション=J.ヴェイブル著「スウェーデンの歴史」から)

また、このころまで王位にあるものが改革の先頭にたっていたが、カールXV世(1859-1872)のころ実質的政治権力は内閣の手に移りつつあったとも記されています。このような時代に日本との国交が樹立されたのはどんな思惑によるものなのでしょうか。

この時代、改革、変革と言っても両国の状況には大きな差異があるとも思われますが、明治維新により近代化の道を歩み始めた日本は西欧の知識、制度、技術の導入に努めました。スウェーデンではその後更に学術、科学技術などが発展し1901年にはノーベル賞が設立されており、日本人としても1949年初めて湯川秀樹氏が物理学賞を受賞して以来22名に及んでいます。

第一次世界大戦に対しては中立宣言、そして第二次世界大戦では中立維持などで今日にいたっており、その後の政治・経済・社会については私たちにとって学ぶことが多々あります。

また、このような国交樹立150年の機会をとおして、昨今宗教・民族等凄惨な争いが絶えない中、私たちは多くの国の歴史を学びつつ平和な世界を築く理性を保つ努力をしたいものと考えます。

〈北海道スウェーデン協会会長〉

強靱な国スウェーデンからの教訓

～次世代・未来志向の国づくり～

2014年5月27日、北海道スウェーデン協会、北海道国際交流・協力総合センター、スウェーデン交流センター、在札幌スウェーデン名誉総領事館の四団体共催による第1回北方圏講座が開催されました。

強靱でたたかな「普通の国」スウェーデンが、国内外の諸問題を抱えながらも、優れた課題設定能力で挑戦する指導者層と国民のスウェーデン社会への強い信頼に支えながら、「健全な財政運営と福祉国家」を両立している姿について、渡邊芳樹前駐スウェーデン大使の講演が行われましたので、その一部を報告します。

さまざまなチャンネルを通じた交流への期待と意義



渡邊芳樹氏
国際医療福祉大学大学院教授・元駐スウェーデン日本国大使

3年余りの任を終え、両国間の新しい関係が育つ素地を少しでもつくれたのだろうかと考えたとき、「スウェーデンの日本に対する信頼をどう高めるか」ということが課題として残されているように感じています。

国民ベースでは日本人は明らかに親スウェーデン国民です。しかし、日本国として、政治として、あるいは外交として、本当にスウェーデンの信頼を得ているかが一番気

	EU内外交力(2012)	EU内順位
1	スウェーデン	4位
2	デンマーク	8位
3	フィンランド	9位

★ノルウェー、アイスランドはEU未加盟
★独、仏、英に続き、スウェーデンは第4位

参照: European Council on Foreign Relations

	GDP規模	総額(2012)	世界順位
1	スウェーデン	5262億ドル	22位
2	ノルウェー	5011億ドル	23位
3	デンマーク	3136億ドル	34位
4	フィンランド	2501億ドル	42位
5	アイスランド	137億ドル	121位

参照: IMF

	証券取引高	株式取引高(2012)	世界順位
1	スウェーデン	3314億ユーロ	—
2	ノルウェー	1299億ユーロ	—
3	フィンランド	987億ユーロ	—
4	デンマーク	822億ユーロ	—
5	アイスランド	—	—



	軍事産業の技術力	武器輸出額(2012)	世界順位
1	スウェーデン	4.69億ドル	12位
2	ノルウェー	1.69億ドル	16位
3	フィンランド	0.62億ドル	23位
4	デンマーク	0.23億ドル	27位

スウェーデンは、
・国民1人当たり、世界第1位の武器輸出額
・戦闘機、船舶、火砲など陸海空装備品のほとんどを自前で製造している北欧唯一の国

※アイスランドは軍事力を持たない

	政府開発援助	対GNI比(2012)	世界順位
1	スウェーデン	0.99%	2位
2	ノルウェー	0.93%	3位
3	デンマーク	0.84%	4位
4	フィンランド	0.53%	7位
5	アイスランド	0.22%	18位

参照: OECD DAC

	ノーベル賞獲得数	合計	世界順位
1	スウェーデン	31個	5位
2	デンマーク	13個	11位
3	ノルウェー	9個	16位
4	フィンランド	3個	—
5	アイスランド	1個	—

参照: Nobel Foundation

	国際観光収入	総額(2012)	世界順位
1	スウェーデン	154億ドル	19位
2	デンマーク	62億ドル	41位
3	ノルウェー	53億ドル	43位
4	フィンランド	41億ドル	50位
5	アイスランド	—	—

参照: UNWTO

参照: スtockホルム、ヘルシンキ、コペンハーゲンにはNASDAQ OMXより、オスロはOslo Borsよりユーロに換算。参照: SIPRI YEARBOOK

北欧諸国の中のスウェーデン

になるところです。双方に尊敬と共感が育ち、スウェーデンから日本に対する信頼、人と人の信頼を高めてくれているのは、むしろ地方団体や民間のさまざまなチャネルを通じた交流ではないかという感じを強く持ちました。この中でやはり北海道は大きく貢献していると思います。その良い例が、当別町や枝幸町の姉妹都市交流のケースです。また、スウェーデンにも先住民族、ラップ人、またはサーミという人々が独自の文化を持っています。北海道のアイヌの人たちとの文化的な交流、将来に向けた若い世代の交流の中で、今までとは違う、北海道独自の付加価値をつける余地があると考えています。

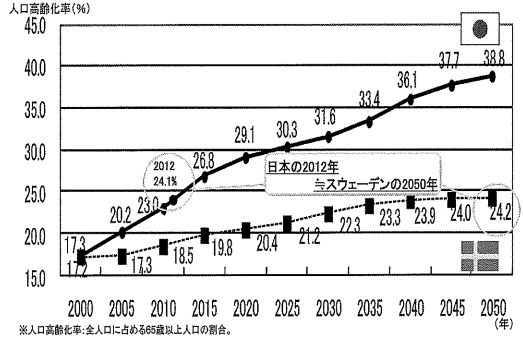
政権交代の予感

スウェーデンでは、この9月に総選挙が行われる予定です。6月中旬に行われたEU議会選挙での得票行動と、代議員の人数の変化を見ると、増減なしの社会民主党が第一党、政権政党である保守党が大幅に減らして第三党、第二党として上がってきたのが環境党。第四党以下は極右のスウェーデン民主党、左翼党（共産党）、元左翼党の女性議員が立ち上げた「フェミニストイニシアチブ（FI）」が躍進しています。非常に大きなブロック的な変化が起きて、過去8年とは違う状態になっています。個性が強い政党ばかりなので、どう取り込んでいくのか、あるいは政策協定するのかがこの9月までの注目点ですが、社民党が首相を射止めるだろうと思われま。この8年間の保守党政権の一つの政策の終焉が近づいているのかもしれません。

少子化と超高齢化社会が同時進行する日本

わが国の現下の最大の課題は、少子化と超高齢化が同時進行する人口減少社会に対応し、世界に「さすが日本」というモデルを見せられるかということだと思います。人口減少社会の中で自分自身の姿を見直していく、自分の生き様、死に様まで含めて考え直してみるということ

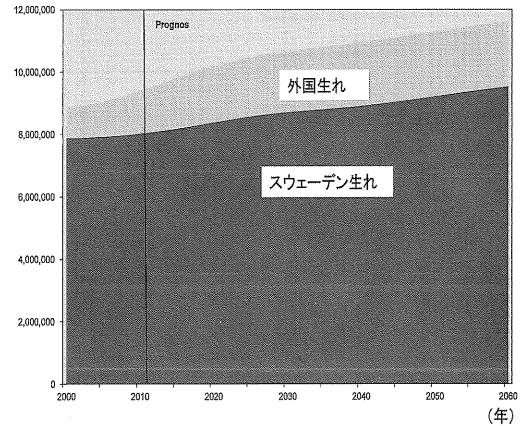
・高齢化の進展について、現在の日本はスウェーデンの2050年の姿。
 ・ただし、80歳以上人口の割合をみると、両国は近い姿。(2010年 日本:6.2% スウェーデン5.3%)



高齢化の進展の比較

・スウェーデンの人口は今後も増大する見込み。(移民による増大が大きく寄与)

スウェーデンの人口推計



【出所】スウェーデン統計庁

人口が増大するスウェーデン

が、常々課題として突きつけられる時代になってきたと感じます。

若返るスウェーデン

スウェーデンの人口は、スウェーデン生まれの人も外国生まれの人も増えています。スウェーデン国内の合計特殊出生率は1.9を上回り、自力で増えていますから、日本的な高齢化の心配はない状況です。外国生まれの中では難民移入が一番大きいのですが、労働移民を2008年から認めたので、雇い先の保証とその職種の産業別労働組合が合意している賃金からあまり

かけ離れていなければ門戸を開放しています。

スウェーデンはほぼ1,000万人の国となりました。30年近く前は人口が800万人の国でしたから、30年で総人口が15%も増え、人口ボーナスの恩恵を受けています。

スウェーデンはどんどんと若い国になっています。日本と同じく「団塊の世代」もあり、高齢化率はじわじわと増え、30年前の高齢化率は17%でした。日本は当時10~11%でしたので、スウェーデンは世界一の高齢化した先進国でした。それからあまり増えないで今日を迎えています。日本は今、25%強です。ストックホルム市の高齢化率は、65歳以上が14%。先進国的に言えば、極端に若い。舛添知事がオリンピック後に直面するのは東京都の超高齢化で、今でも20%あります。

スウェーデン社会の三つの特徴

一つ目は、全員参加型の労働市場。「就労第一」といって女性や移民を含めて個人の力を解放させ、社会全体を活性化していく道を探っています。

二つ目は、市場ルール型の公共部門運営。長い歴史の中で分厚い公共政策はできています。実際の政策運営に当たり、税金は国や地方団体に徴収し、市場ルールに則り民間に運営委託を採用しています。

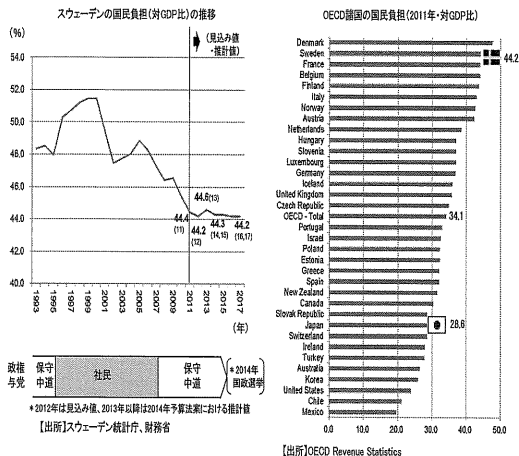
三つ目は、政権が変わるとは言っても、過去の経験上、強く安定した政治の機能があります。この8年間の保守政権のときにオピニオンリーダーのナンバーワンが財務大臣だったというのは、いかにも実利主義的な国のさばきをするだろうと思わせます。

国民負担と社会保障の優先課題

スウェーデンの国民負担の推移は高い水準にあるものの、「高負担」から徐々に減少傾向にあります。

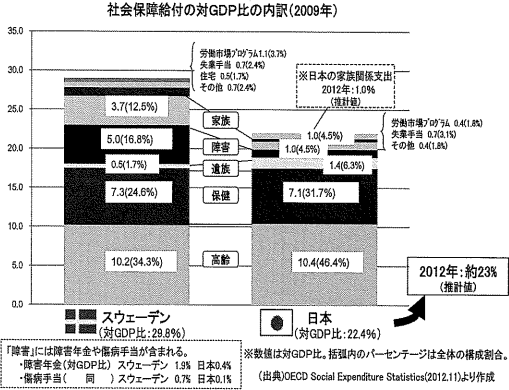
社会保障給付の内訳では、スウェーデンは、社会保障給付を受けた人が払っている税金の対

スウェーデンは、引き続きOECD諸国の中で高い水準にあるものの、かつての「高負担」から、近年は徐々に減少傾向にある。

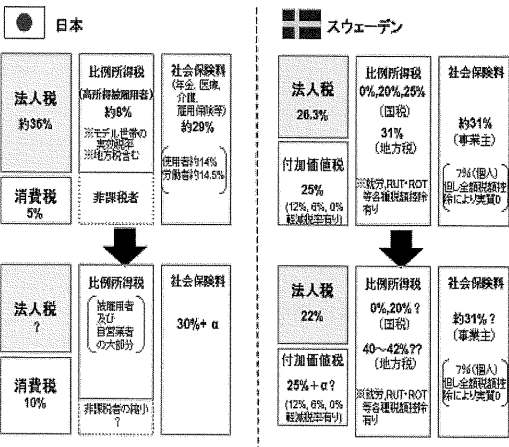


国民負担の推移

スウェーデンは日本と比べて支出規模(対GDP比)が大きい。
 高齢、保健分野への支出は両国とも増加傾向であるが、スウェーデンは日本と比べて障害、家族、労働市場プログラムへの支出規模が大きい。



社会保障給付の内訳



税・社会保障負担の現状と将来

GDP比は5%。スウェーデンの社会保障の実力は社会保障給付の対GDP比30%から5%を引いた25%です。

日本では給付を受けた人が払っている税金の対GDP比が1%。日本の社会保障の実力は、社会保障給付の対GDP比23%引く1%で22%。つまり、25%と22%の差がスウェーデンとの距離感です。

スウェーデンでは、社会保障の分野で意識的に未来志向の政策を選択し、高齢者部門より子供や障害者部門に重点的に予算配分がなされています。日本は、未来に向けて大切な子育て家族、若い親の支援と、障害を持ってもまだまだ能力を發揮できる人たちへの支援が政策的な必須課題だと感じています。

スウェーデンにおける高齢者介護の現状

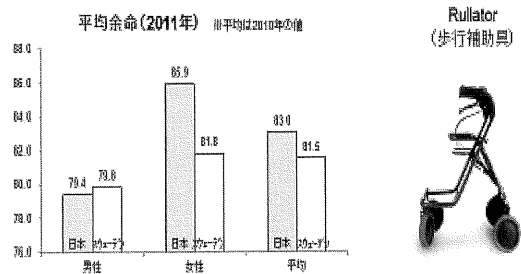
スウェーデンが高齢者福祉を増強していた頃は、団塊世代の人たちが30～40代で、保育所・高齢者介護施設の雇用を満たしていました。現在、団塊世代が大量退職の時代に入り、高齢者介護は予算の制約もあり、移民労働力に頼らざるを得なくなっています。国の内外で高い評価を得ていたサービスも担い手が代わり、だんだん国民の間の信頼が落ちてきた感があります。

結局、うちの娘に頼ろう。いづこも同じです。女性に頼る。それで女性が介護疲れする。短時間労働に切り替える。そして、とうとう離職してしまう。そんな介護離職ケースがけっこう目立ってきました。高齢者の介護期間はそんなに長くはありません。自然体で尊厳死、医者が直接関与しなくても最期を迎える方も多い。しかし、そんなに長くないといっても何ヶ月か休みがちになって、終わってきたら、親を失った悲しみと疲れで相当疲弊しています。

自分の死に向き合う

QOD (Quality of Death) と最近日本でも言いますが、自分の身の始末をどうするか——自分で食べられなくなったら、無理に医者頼らず

最も健康な国民の「受動的安楽死 (Passive Euthanasia)」～自然体の死～と緩和ケアの普及



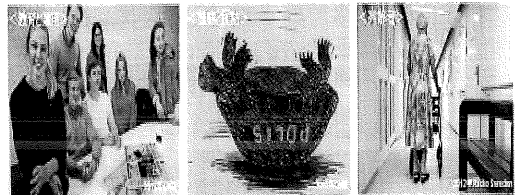
大企業中心の経済社会政策モデルから 先端的中小企業を中心とするイノベーション経済モデルへの移行がもたらす陥穽 ～労働移動に馴染む社会保険への要請～ ～中小企業(※)の社会保険負担回避要求～



(※) 新規の雇用(Job)の約80%は中小企業により創出される社会に変容している。(ホテル・レストラン/医療福祉サービス側)

(※※) 医療福祉サービス企業(Vårdbolag)は10,700社、その94%は従業員20人未満の企業。2008年～2011年で24,000人以上の雇用増、売り上げも30%増。選択の自由改革による増加が顕著。
(2012年11月13日DN誌)

未来志向・次世代志向・就労第一志向の経済政策の成功と共生する国家機能の制約顕在化、若年高失業率及び高齢者後回し政策の持続性



(参考1) 65歳以上高齢者のホームヘルプ在宅介護(中央統計庁データに基づきストックホルム大学ソーシャルワーク研究所作成データ 2012年11月 ※追跡的性質は益まず。)

2002～2003年では、視察介護のみ(27%)、視察介護とホームヘルプ(21%)、ホームヘルプのみ(24%)であったものが、2009～2010年では、視察介護のみ(81%)、視察介護とホームヘルプ(32%)、ホームヘルプのみ(12%)と変化。視察介護の増大が顕著となっている。

(参考2) 高齢者住宅(政府資料による比較、上記研究所2012年11月)80歳以上高齢者のうち、高齢者住宅に住む者の割合は1960年28%、1990年22%、2000年20%、2012年14%と高減傾向が顕著。

(参考3) 視察介護による離職率(保健福祉庁、2012年) 29,000人が離職、70,000人が短時間勤務へ切り替え

スウェーデンモデルを“何かとても素敵なもの”として 自ら掲げる強くなったかな「普通の国」

・市場経済主導と政府財政均衡の“判りやすい国”への変貌と経済危機回避と開放社会の繁栄に対する「強い自信」

・支配的政治勢力や巨大組織からの脱却願望～「選択の自由」と「増税に対する忌避感」、「制度化への忌避感」

・公助原則から自助原則への転換願望～「守備範囲の見直し」及び「優れた現場指導力の評価」と「最低基準の回避」

・共助原則の制度化を受け入れられないスウェーデン型民主主義の原点（税負担と責任）

・「平等」と「中庸」のプラグマティズムがスウェーデンらしさの本質、繁栄の源泉と感ずる国民性との乖離と回帰の限界

・数層の低い個人情報と国家への信頼が作る『フラットな超高度IT社会』への歩み



盲童の男の子（9歳）がオスaka大学病院の救急部門で延命の間に盲導が次で読書、な状態に陥った。手術まで2も待たされる間の出来事だ。（2012年11月19日NHK放映）

に住み慣れた環境で自然体に最期を迎える、と考えるスウェーデン人が多いと思います。そういう意味で、尊厳を大切にして、孤独死や孤立死ではなく、「独立死」とでも言うべきしっかりした死に様を志向しているのではないかと思います。まだまだ学ぶものが多い国として、交流を更に深めていきましょう。

（編集・文責 事務局）



起業活動を高めるために 何が必要か？

GEM (Global Entrepreneurship Monitor) の調査結果のスウェーデンとの比較から得られるヒント

川崎 一彦

〈今なぜ起業活動か？〉

日本経済が〈失われた20年〉と形容し始められてから久しい。

世界のGDPに占める日本の比率は17.7% (1995) から5.4% (2013) にまで減少している。

その主因は日本の経済社会システムが〈知業〉の時代に対応出来ていないから、と総括することも出来よう。

知業経済では知的財産を生み出す創造性とイノベーションが鍵となる。

わが国では起業活動が低迷し始めてから四半世紀以上経過する。その対応策は重要な政策課題の一つである。

本稿では起業活動の分野でスウェーデンの状況と比較して日本へのヒントを探る。

〈GEM調査の概要〉

GEM (Global Entrepreneurship Monitor) という起業活動について世界でも最も大規模な調査がある。本稿ではGEMの調査結果の中でとくにスウェーデンと日本を比較しながら日本における起業活動の活性化のヒントを探るのが目的である。

最新の2013年のGEM調査には70カ国／地域が参加した。

GEMでは、各国の起業活動の活発さをあらわす指標として「総合起業活動指数 (Total Early-Stage Entrepreneurial Activity : TEA)」という尺度を開発し、継続的に調査している。

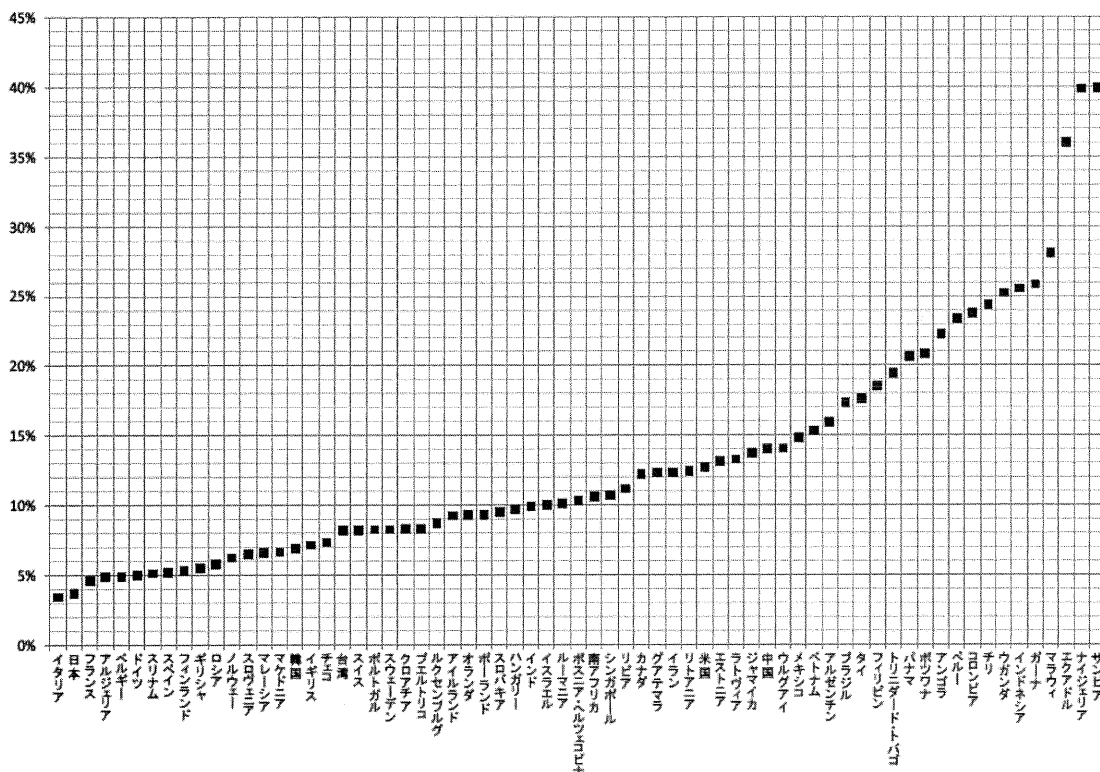


図1 各国のTEA

GEMでは、下記のように定義する企業の「誕生期」と「乳幼児期」の合計を各国の起業活動者としており、これらの起業家が成人人口に占める割合(%)がTEAである。

「誕生期」は、独立・社内を問わず、新しいビジネスを始めるための準備を行っており、かつまだ給与を受け取っていないまたは受け取っている場合その期間が3ヶ月未満である人、「乳幼児期」はすでに会社を所有している経営者で、当該事業からの報酬を受け取っている期間が3ヶ月以上3.5年未満の人と定義されている。

〈急増するスウェーデンの起業活動〉

スウェーデンのTEAは2007年の4.2%から2013年には8.3%に増加している。この間に日本のTEAは逆に4.3%から3.7%に減少している。2013年の日本のTEAは調査参加国すべての中でイタリアに次ぎ下から2番目であった。

・起業活動浸透指数（ロールモデル）

GEMの質問の一つに「過去2年間に、新しく事業を始めた人を個人的に知っていますか」という問いがある。

ロールモデルが近くにいるかを確認する質問である。

〈はい〉と答えた人の比率がイノベーション主導型経済(先進国)のなかで最も高いのはフィンランド(45.5%)で、スウェーデンは5番目(37.1%)。最も低いのは日本(14.0%)であった。

・GEMでは事業機会の認識についても尋ねている。「今後6ヶ月以内に、自分が住む地域に起業に有利なチャンスが訪れると思いますか」という質問で、〈はい〉と答えた人の比率が世界一なのはスウェーデンであった。イノベーション主導型経済では、スウェーデン(64.4%)、ノルウェー(63.7%)といった北欧諸国の水準が概して高い。逆に、日本(7.7%)、韓国(12.7%)等の水準は低い。

2013年のGEMでは起業家の幸福度調査も行っている。これは、主観的ウェルビーイング(Subjective WELL-BEING：以下、主観的幸福度)の調査および、ワークライフバランスに関する調査である。

主観的幸福度を測定するために、ここでは人

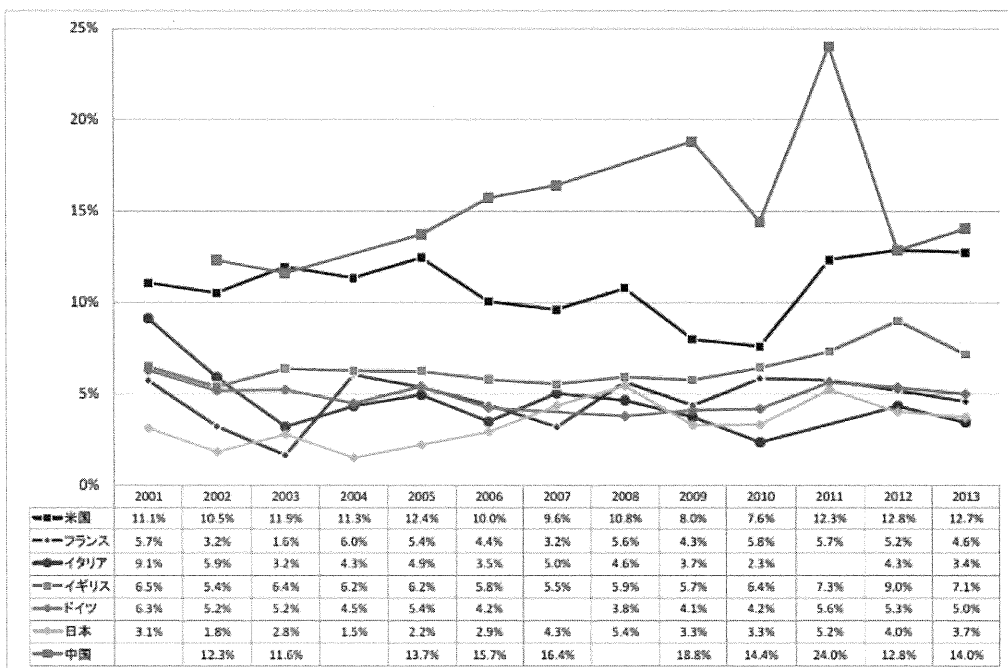


図2 主要国のTEAの推移

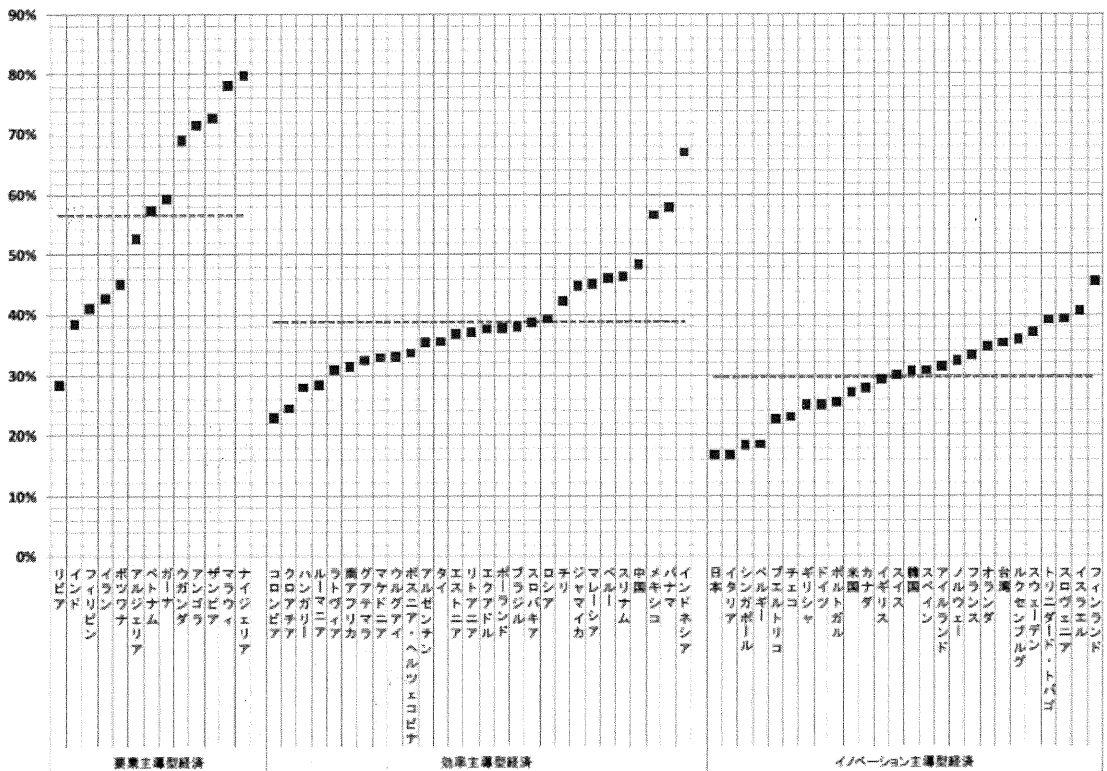


図3 起業活動の浸透

生に対する満足尺度（The Satisfaction With Life Scale：以下、SWLS）を採用している。具体的には、次の5つの質問に対して、5段階の尺度（全くそう思わない、どちらかと言えばそう思わない、どちらとも言えない、どちらかと言えばそう思う、強くそう思う）で回答するというものである。

- ①大体において、私の人生は私の理想に近い
- ②私の今の人生は、最高の状態にある
- ③私は、自分の人生に満足している
- ④今までの人生において、私は、自分が求めていた大切なものを手に入れることができた
- ⑤もう一度人生をやり直せるとしても、私は何も変えようとはしないだろう

ワークライフバランスについても、次の8つの質問に対して、5段階の尺度で回答するというものである。

- ①私は自分の仕事のやり方について自分自身で決めることができる
- ②私が行っている仕事は、私にとって重要で有意義なものである
- ③仕事において、私は過度なストレスにさらされていない
- ④私は、私の今の仕事に満足している
- ⑤私は、仕事から得られる所得に満足している
- ⑥私は、仕事とプライベートな生活との時間の振り分け方に満足している
- ⑦私は、仕事で求められることと、家庭や自分自身の生活で求められていることを両立する能力に満足している
- ⑧私は、仕事で十分な成果をあげると同時に、家や家庭でやるべきことにも十分貢献できる状況にあることに満足している

主観的幸福度を測定するために、調査参加国は、先に示した5つの質問を回答者全員に実施

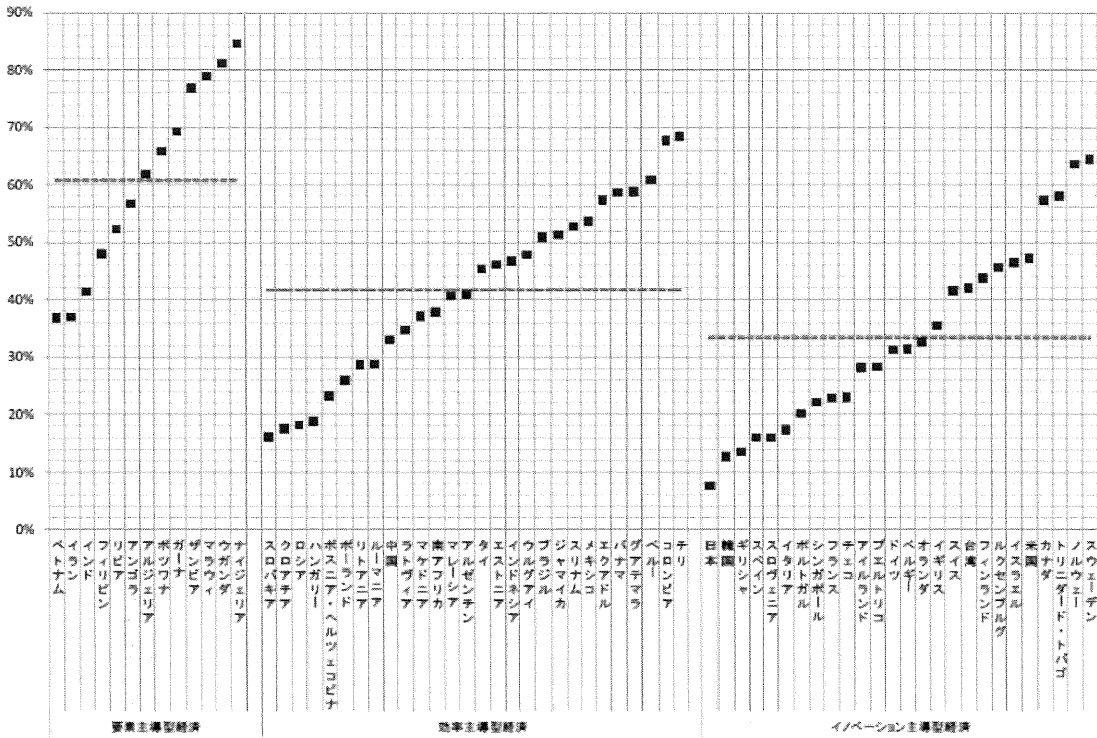


図4 事業機会の認識

した。その結果については、人生に関する満足尺度、つまりSWLSという一つの指標にまとめられ、数値も、最高（最も良い）が+1.7、そして最低（最も悪い）が-1.7になるように標準化されている。

スウェーデンは起業家の人生に関する満足度が人口全体よりも高い唯一の国である。

起業の増加は経済活性化のカギである。スウェーデンの結果は同時に幸福度とワークライフバランスをゲットすることが可能であることを示唆している。

スウェーデンの人事コンサルタント企業Manpower社は〈スウェーデン人の夢の職業〉の調査を実施している。130の職業の中から選

表 人生に関する満足尺度

国名	18-64歳人口全体	TEA	既存企業経営者	事業機会型TEA	生計確立型TEA	TEA男性	TEA女性
米国	0.22	0.14	0.54	0.26	-0.38	0.14	0.14
フランス	-0.03	0.09	0.08	0.17	-0.62	-0.01	0.30
イタリア	0.02	-0.01	0.19	0.13	-0.64	0.01	-0.06
英国	0.30	0.11	0.32	0.22	-0.45	0.22	-0.03
ドイツ	0.12	0.06	0.27	0.18	-0.40	-0.04	0.22
日本	-0.23	-0.31	-0.08	-0.26	-0.43	-0.55	0.14
スウェーデン	0.24	0.31	0.30	0.40	-0.34	0.15	0.59

資料：GEM (2013)

注)「TEAにも既存企業経営者にも属さないグループ」については、18-64歳人口全体と同じ値であったため、ここでは掲載していない。

ばれた夢の職業が下の表である。(2013年10月に公表) 男女とも起業家が上位に入っている。

スウェーデン人は個人の自由度の高い職業に憧れるようである。

夢の職業に惹かれる理由(複数回答)については、以下があげられている。

- ・ワクワクするし、自己啓発にもなる 61%
- ・個人の自由度が高い 34%
- ・他の人を支援する可能性が出来る 25%
- ・社会を改善または変化出来る 19%
- ・高い給与が得られる 17%
- ・安定している 8%

2013年合計	女	男
1 社長	人事課長	社長
2 人事課長	エコノミスト	エンジニア
3 起業家	作家	起業家
4 エンジニア	起業家	人事課長
5 エコノミスト	社長	発明家
6 作家	インテリアデザイナー	音楽家
7 経営コンサルタント	マーケティング	経営コンサルタント
8 マーケティング	教師	作家
9 音楽家	コーチング	テストドライバー
10 教師	経営コンサルタント	探検家

〈スウェーデンの起業の増加の要因〉

- ・1960-80年代と比べ起業に対する社会的な見方は大きく変わってきている。2006-2014の中道右派政権はとくにこの分野の政策に注力してきた。
- ・何らかの理由で起業をためらっている予備軍が成人人口の20%もある。(62%が起業の可能性があると考えている→その中で起業を実現するための知識を持っていると考えている人は29%→失敗するという不安のある人は10%) これだけの起業家予備軍が居る背景の一つは起業家精神教育にもあろう。

〈GEMの結果からみる日本へのヒント〉

2014年3月にスウェーデン政府がスタートさせた起業家精神および創造的企業経営に関する調査委員会には以下のような政策分野の検討が委嘱されている。

起業とイノベーションを推進する企業環境の整備。税制、各種手続き、イノベーションの支援、リスクキャピタル、産学官の連携、などを総合的に見直す。

これらはすべて日本にとっても重要なチェックポイントであろう。

さらにスウェーデンを含め北欧では就学前から起業家精神教育を実施しているところが多い。このような教育も大切な政策のポイントと考えられる。

起業および起業家精神教育の分野でも日本はスウェーデンから得られるヒントは多い。

(本稿は2015年2月2日に開催された北海道スウェーデン協会新年交礼会における講演をベースに執筆しました)

参考資料:

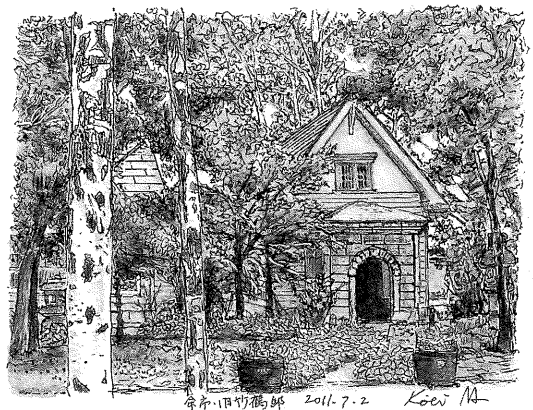
- ・GLOBAL ENTREPRENEURSHIP MONITOR 2013 GLOBAL REPORT FIFTEEN YEARS OF ASSESSING ENTREPRENEURSHIP ACROSS THE GLOBE: José Ernesto Amorós, Niels Bosma and Global Entrepreneurship Research Association (GERA), 2014
- ・Entreprenörskap i Sverige-Nationell rapport 2014
Entreprenörskapsforum, 2014
- ・平成25年度創業・起業支援事業
(起業家精神と成長ベンチャーに関する国際調査)
「起業家精神に関する調査」報告書
一般財団法人 ベンチャーエンタープライズ

センター 2014

- ・日本政策金融公庫論集 第19号 (2013年 5月)
日本の起業活動の特徴は何か
——グローバル・アントレプレナーシップ・
モニターに基づく分析——
日本政策金融公庫総合研究所上席主任研究員

(現・文教大学国際学部教授) 鈴木正明

- ・Kommittedirektiv Förbättrat klimat för en-
treprenörskap och innovativt företagande
(2014-03-27)
(北海道スウェーデン協会顧問・東海大学名誉
教授・在ストックホルム)



王立工科大学との 共同研究の始まり

瀬尾 眞 浩

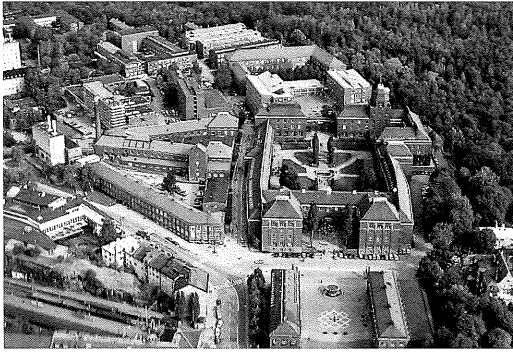
それは今から35年も昔のことである。私は、当時（1980年10月）、京都で開かれた表面技術に関する国際会議に出席していた。私の「ステンレス鋼の表面処理」に関する口頭発表が終わり、外国人研究者から質問を受けた。次の発表は私に質問した当人であり、発表の内容が私の発表と類似しているのに驚かされた。私も彼の講演にたいして質問をおこなった。その後、京都の南禅寺等の寺院を散策し、お互いに情報交換をおこなった。私に質問した外国人研究者は、私より5才年下のスウェーデン王立工科大学（KTH：Kungliga Tekniska Högskolan）のGunnar Hultquist博士であった。研究テーマが近いところから共同研究を計画することになった。私は札幌に戻り、直ちに当時、私が所属していた北大工学部の研究室（金属腐食の電気化学的研究をおこなっていた）担当であった佐藤教男教授（現：北海道大学名誉教授）にKTHとの共同研究の実施について相談に伺った。佐藤教授は当時、スウェーデン腐食研究所の所長であったEinar Mattsson教授（故人：銅の腐食研究で国際的に著名）とも知古で、是非、共同研究を実施してみてもとの賛同を得た。そこで、共同研究実施の資金獲得のために、日本学術振興会の「国際共同研究」に応募することになった。

私は翌年9月にドイツ（当時西ドイツ）マインツ市で開催された金属腐食国際会議に出席後、スウェーデン、ストックホルム、KTHのHultquist博士を訪問した。私はポストドクター研究員として米国オハイオ州立大学に2年間留学した経験があるものの、ヨーロッパ訪問は、私にとってこれが初めてであった。日本で予め、ヨーロッパ鉄道パスを購入して、往路はケルンからストックホルム、帰路はストックホ

ルムからパリへ鉄道を利用した。ケルンの大聖堂を見学後、ケルンから夜行寝台列車で翌早朝、コペンハーゲンに到着した。丁度、日曜日でもあり、観光も兼ねてコペンハーゲンに一夜泊した。コペンハーゲン中央駅近くのホテルに荷を降ろし、近くのチボリ公園を訪れた。午前中のためか、チボリ公園には子供達の歓声はなく、数多くの老人カップルの散策が目についた。次に徒歩でアメリカンボーイ宮殿を訪れ、正午に行われる衛兵の交替式を見学、さらに、足を延ばし、カステッド要塞や人魚の像も訪れた。また、運河沿いに木造家屋が並ぶニューハウフンやコペンハーゲンの繁華街であるストロイエを散策した。

次の朝、コペンハーゲン中央駅から列車でストックホルムへ向け出発した。当時はデンマークのコペンハーゲンとスウェーデンのマルメを結ぶオーレスン大橋（2007年7月開通）は建設されておらず、デンマーク側のヘルシンオアから対岸、スウェーデン側のヘルシンボリまで、車両ごとフェリーで渡った。フェリーの旅は20分程度であったが、船内はタックスフリーで、ガムラ・ダンスク等のデンマークの強い酒類を購入することができた。ヘルシンボリから再び陸上の旅となったが、途中、信号機の故障でストックホルム到着は予定より2時間遅れとなった。列車が遅れたため、少し心配であったが、ストックホルム中央駅にHultquist博士が迎えてくれた。彼は、予定の時刻にストックホルム中央駅に着いたが、列車の遅れを知り、一旦、自宅に戻り、再び駅に迎えにきてくれたのである。その日はHultquist博士の案内でKTHから徒歩7～8分のところにある大学のゲストハウスに宿泊した。

ゲストハウスはKTHのGunnar Wallquist教授（故人）の住居を、独身であった教授の逝去後、大学がゲストハウスとして買い取ったとのことである。Wallquist教授は東洋の工芸美術に造詣が深く、各部屋は中国陶器や調度品等で飾られていた。ゲストハウスの宿帳に記された宿泊



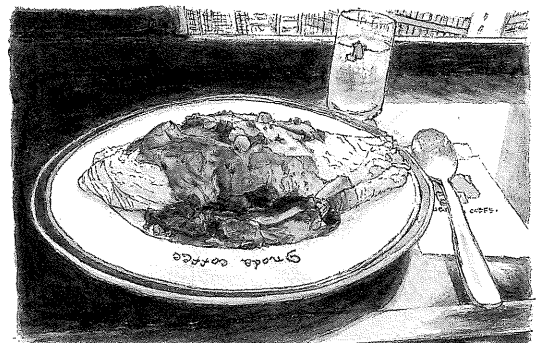
KTH キャンパスの航空写真 (Konsten på Kungl. Tekniska Högskolan, p. 99, Byggforlaget, Stockholm, 1992)

者の署名のなかに、度々KTHを訪れていた北大工学部の相馬純吉教授（故人）の名前があった。私は後に相馬教授の推薦により北海道スウェーデン協会の会員にさせていただいた。私はストックホルム滞在中に、Hultquist博士の他にKTHのJan Christer Eriksson教授（専門：表

面化学）やスウェーデン腐食研究所のEinar Mattson教授に面会し国際共同研究の実施に向けてその詳細を詰めることができた。しかし、Hultquist博士と同門（KTH物理出身）で兄弟子にあたるスウェーデン腐食研究所のChristofer Leygraf博士（後にKTH教授）は、米国に留学中のため不在であったが、数年後、ストックホルムで面会することができた。

私のスウェーデン訪問の翌年、1982年に日本学術振興会に申請していた国際共同研究「鉄基合金の腐食と不働態に関する表面化学的研究」が幸いにも採択され、共同研究を実施できるようになった。1983年以降、私は共同研究実施のため、度々スウェーデンを訪れたが、そのことについては、次の機会にでも述べたいと思っている。

〈本協会々員・北海道大学名誉教授〉



2014.8.1 1193-7- Koen M.

北海道スウェーデン協会 平成26年度の主要行事

■ 4月23日水曜日

第1回常任理事会 会場：アラゼン

■ 5月21日水曜日

平成26年度理事会、総会、講演会及び懇親会
(ホテルモントレーエーデルホフ札幌)

〈総会・懇親会出席者24名〉

一講演会一

「現代スウェーデンからの教訓」

講師：渡邊 芳樹先生 (国際医療福祉大学
大学院教授、元駐スウェーデン大使)

参加者：100名

共催：(公社)北海道国際交流協力総合セン
ター (ハイエック)

後援：在札幌スウェーデン名誉領事館、(一
財)スウェーデン交流センター
ホイスコーレ札幌

■ 6月2日月曜日～19日木曜日

2014年日・EUフレンドシップウィークイベ
ント

「Visit Sweden」を後援

主催および会場：北海道大学図書館EU情報
センター

■ 7月30日水曜日

札幌市消防局スウェーデン消防技術調査団と
の懇談会

(川崎先生への調査協力依頼も含めて)

参加者：10名

会場：北海道大学百年記念会館

■ 10月15日水曜日

第2回常任理事会 会場：赤れんがカフェ

■ 12月7日日曜日

第21回スウェーデンルシアを迎える会に協賛

参加者：800名

会場：恵庭市民会館大ホール

主催：2014スウェーデンルシアを迎える会

■ 12月17日水曜日

第3回常任理事会 会場：北大学術交流会館

■ 1月28日水曜日

新春講演会および新年交礼会

(ホテルモントレーエーデルホフ札幌)

〈新年交礼会出席者30名〉

一講演会一

「Keyword in北海道～スウェーデンとこれか
ら」

講師：川崎 一彦先生 (当協会顧問、東海
大学名誉教授)

一ニッケルハルバのミニ演奏会一

演奏：ルイース・ビュールンドさん (ス
ウェーデン交流センター)

参加者：30名

■ 3月11日水曜日

世界女子カーリング選手権札幌大会2015出場
スウェーデンチーム激励会

参加者：20名

会場：ホテルモントレーエーデルホフ札幌
「随縁亭」

■ 3月14日土曜日

世界女子カーリング選手権札幌大会2015ス
ウェーデンチーム初戦応援

対ドイツ戦

参加者：7名

会場：月寒体育館どうぎんカーリング場

■ 3月30日月曜日

日瑞国交樹立150周年記念イベント意見交換
会 (スウェーデン関連四団体)

参加者：6名

会場：北海道大学学術交流会館

〈事務局長〉

北海道スウェーデン協会収支状況 (H27.03.31現在)

単位 (円)

項 目		予算(A)	実績(B)	(A) - (B)	
収	会 費	340,000	340,000	0	
	その他収入	総 会 懇 親 会	120,000	144,000	-24,000
		新年交礼会懇親会	120,000	180,000	-60,000
		そ の 他 収 入	60,000	54,000	6,000
	その他収入合計	300,000	512,000	-212,000	
入	奨 励 基 金	0	0	0	
	銀 行 利 子	0	66	-66	
	前 期 繰 越 金	624,678	624,678	0	
収 入 合 計		1,264,678	1,476,744	-212,066	
支	理事会・総会・懇親会	300,000	298,380	1,620	
	新 年 交 礼 会	300,000	221,500	78,500	
	白 夜 発 行 費	200,000	113,400	86,600	
	協 賛 金 ・ 分 担 金 等	100,000	120,000	-20,000	
	奨 励 基 金	0	0	0	
	事 務 費	40,000	27,578	12,422	
	諸 費	40,000	50,374	-10,374	
	予 備 費	284,678	0	284,678	
	繰 越 金	0	645,512	-645,512	
支 出 合 計		1,264,678	1,476,744	-212,066	
残 高		0	0		

事務局だより

墨谷事務局長から引き継ぎ、3年目になりました横山隆です。(公社)北海道国際交流・協力総合センター(ハイエック)、(一財)スウェーデン交流センター、在札幌スウェーデン名誉領事館およびホイスコーレ札幌の皆さんと手を携えて活動させて頂いております。

平成26年度の活動を振り返り、ハイライトでお伝えしておかなければならない事項を5つ挙げてみたいと思います。

一番目は、5月21日の平成26年度理事会・総会に合わせて開催いたしました第1回北方圏講座。渡邊芳樹元駐スウェーデン大使(現 国際医療福祉大学大学院教授)に、「現代スウェーデンからの教訓」と題してご講演いただきました。「保守・中道ブロック」から「社会民主党・中道ブロック」への政権交代の予感や、次世代・未来志向の国づくりに邁進するスウェーデンの強靱な、そしてしたたかな政策運営、国民の合意形成などについて語っていただきました。渡邊元大使は岩見沢市のご出身でもあり、地元岩見沢市での講演会を9月27日に、また北海道医療大学主催の講演会も平成27年1月に札幌市で行い、北海道での情報発信に精力的に取り組んでいただいております。

二番目は、本会顧問の東海大学名誉教授川崎先生が活動の拠点をスウェーデンに移された後も、5月、7月、2月に来日してエネルギッシュな活動を続けて下さっています。札幌市消防局とストックホルム市消防局の技術協力関係の橋渡しや、イノベーションと教育に関するセミナー等の講師を務められ、本当に頼もしい限りです。札幌市消防局の「消化戦術研究に際するスウェーデン王国への海外事例調査」への協力に対し、札幌市中央消防署長から本会に感謝状をいただいております。

三番目は、森元誠二駐スウェーデン大使の二度にわたる講演会中止です。当初、在外駐在大使会議に出席される森元誠二大使の訪日スケジュールに合わせて2月2日月曜日に講演会、本会新年交礼会を予定していました。しかし、イスラム圏のみならず欧州全域の政治的緊張から、「邦人の安全確保」に全力を挙げるよう日本政府から在外公館に禁足令が指示され、来日が叶わなかったのが理由です。その後、3月末の在外駐在大使会議が計画され、来道の可能性も本会に伝えられて講演会の準備に着手したのですが、政治的緊張は緩むことがなかったために在外駐在大使会議も延期となってしまいました。

三度目の正直という諺もありますが、来る7月6日月曜日17:00からホテルモントレーエーデルホフ札幌1階ワグナーハウスを会場に、森元誠二大使講演会を予定しております。ぜひ、政権交代後のスウェーデンの様子や、ギリシャ財政問題を含めたEUの政治状況について、最新の情報を伺えるものと期待しております。

四番目は、札幌市月寒体育館どうぎんカーリング場で開催された世界女子カーリング選手権札幌大会2015に参加したスウェーデンチームへの応援を行ったことです。3月11日水曜日には激励会、3月14日土曜日には初戦の対ドイツ戦に応援に駆けつけました。応援缶バッチを着用しての応援となりました。

応援缶バッチ制作はスウェーデン交流センターの高平さんのご尽力によるものです。ありがとうございました。また、激励会は、ホテルモントレーエーデルホフ札幌13階にある結婚式場の諏訪神社を見渡せる和室で行い、会食後、杉本会長に先導頂き、「必勝祈願」の参拝を行いました。

五番目は、2018年、今年から3年後に迎える日瑞国交樹立150周年記念イベントに関連する話題です。雪祭り国際雪像コンクールに出場していたスウェーデンチームが、昨年欠場しています。最近では継続してキルナのアイスホテル制作チームが来日していたのですが、昨年からの後援が得られな



左から：Sofia Mabergs (Alternate), Sara McManus (2nd), Christina Bertrup (3rd), Maria Prytz (4th, Vice-skip), Margaretha Sigfridsson (1st, Skip)

← 直径57mm →



かったので出場を断念したとのこと。キルナのアイスホテルは集客が好調のようで、オーロラ観光の日本人観光客向けに、期間限定でスカンジナビア航空SASも特別便で対応しているそうです。

2018年日瑞国交樹立150周年記念の雪祭り大雪像を夢見ている私たち関係者にとっても、大雪像実現の道筋を模索しなければいけないと考えています。

付随しての明るい話題は、当別町の皆さんが力を併せて本家「アイスホテル」に勝るとも劣らない「アイスヒルズホテル」を冬期間継続運営されたことです。宿泊された方が何組もあったそうですが、暖冬のおかげで氷壁の強度に不安がありと2月末で閉鎖せざるを得ませんでした。来年以降も冬の風物詩として定着させるためのお手伝いをさせて頂ければと思います。

〈事務局長 横山 隆〉

世界女子カーリング選手権札幌大会2015出場スウェーデンチーム成績

3月14日土曜日	対ドイツ	3：5	敗北			
3月15日日曜日	対日本	5：6	敗北	対カナダ	8：6	勝利
3月16日月曜日	対ロシア	3：9	敗北	対デンマーク	7：5	勝利
3月17日火曜日	対中国	9：3	勝利	対ノルウェー	8：5	勝利
3月18日水曜日	対フィンランド	12：4	勝利	対アメリカ	6：7	敗北
3月19日木曜日	対スコットランド	7：10	敗北	対スイス	5：7	敗北

*スウェーデンチームは世界ランク3位であったが、5勝6敗

優勝 スイス、準優勝 カナダ、三位 ロシア

追記：本号の「白夜」も、全面的に横山事務局長と赤坂さんのお世話になりました。表紙の絵は、「ノルシェーピン2010」と題する南“画伯”のスケッチです。カットの数葉も提供して下さいました。皆さんに厚くお礼申し上げます。

発行人

北海道スウェーデン協会

会長 杉本 拓

〒062-0911

札幌市豊平区旭町3丁目1-7 北海道東リビル3階
(株)アラゼン内

TEL(011)837-8411

印刷／(株)アイワード

札幌市中央区北3条東5丁目

TEL.241-9341 FAX.207-6178
